日本沙漠学会ニュース

OASIS 26(1) 2016
〔No.94 June 2016〕

News and Communications of
The Japanese Association for
Arid Land Studies

おあしす

日本沙漠学会　第 27 回学術大会（2016 年 5 月 28 ～ 29 日　鳥取大学乾燥地研究センター）
上段：参加者集合.
中段（左から右へ）：公開シンポジウムの篠田雅人会員（シンポジウムオーガナイザー），北川浩之氏，辻本壽氏，藤巻晴行会員（大会実行委員長），北村義信会員，縄田浩志会員，山中典和氏（乾燥地研究センター・センター長）.
下段（左から右へ）：ポスター発表と懇親会が行われたインターナショナル・アリド・ラボ，エクスカーションとして訪れたラッキョウの体験収穫.

日本沙漠学会 2016 年度 第 27 回学術大会・評議員会・総会記事（総務報告）

◇ 2016 年度学術大会報告

2016 年 5 月 28 日（土）～ 29 日（日）に鳥取大学乾燥地研究センター（〒 680-0001 鳥取市浜坂 1390）にて第 27 回学術大会を開催した.

5 月 28 日（土）における学術大会では，研究発表会セッション 1・2（発表数 8 題），ポスター発表コアタイム（発表数 11 題），総会，学会賞授賞式，公開シンポジウム，懇親会を順に開催した．総会内容については概要を後述する.

公開シンポジウムでは，（乾燥地災害学の体系化研究）「砂漠化の歴史を編む」をテーマに，「砂漠化の歴史を編む：趣旨説明」，「地中海東岸レヴァント地方の過去 20 万年間の水文変動を探る」，「文明の礎たる作物と家畜から見た人と自然のせめぎあい」，「中東地域の古代および中世における農地の塩類化とその教訓」，「アラル海流域における人間活動の変遷と塩類化」の 5 講演を行った．その後，懇親会を同センター内インターナショナル・アリド・ラボで開催した．懇親会中，ベストポスター賞の授与式が行われ，キルイ・サミエル・ キプケモイ会員ほかの「灌漑水量の違いがダイズの根系分布と収量に及ぼす影響」と，丸山優樹会員ほかの「農業政策による農地開発効果の評価」に授与された．さらに，千葉工業大学における次期 28 回学術大会開催予定についての案内がなされた.

5 月 29 日（日）は，研究発表セッション 3・4（発表数 8 題）と，学会賞受賞者記念講演が開催され，閉会式で 2 日間の学術大会を終了した．なお学会賞は，吉川賢会員の「乾燥地における造林技術と生理生態学的研究に関する一連の業績」に対して授与された．授賞者には，副賞として片倉もとこ賞によるメダルが贈呈された.

◇第 29 回評議員会報告

2016 年 4 月 15 日（金），東京農業大学世田谷キャンパス（生産環境工学科農業ロボット工学研究室木工室内）にて第 29 回評議員会が開催された．小島紀徳会長を議長として，① 2015 年度学会賞の審査報告（学会賞選考委員会・白石雅美委員長と豊田裕道幹事より説明），② 2016 年度総会資料提出議案について（鈴木伸治務担当理事より説明），③その他，について各々提案され承認された．詳細は「学会記事」掲載の議事録を参照されたい.

◇ 2016 年度日本沙漠学会総会報告・学会賞授与報告

総会報告･･･ 5 月 28 日（土）13:30 ～ 14:30，鳥取大学乾燥地研究センター多目的室において開催した．正・名誉会員数 309 名に対して，出席者数 43 名，委任状数 136 名，合計 179 名で総会が成立したことが総務担当田島淳理事より報告があった．総会の開催にあたり小島紀徳会長より挨拶があり，その後依田清胤会員を議長として選出し，承認の後に議事を進行した．総務担当鈴木伸治理事より 2015 年度事業報告がなされ，続いて財務担当矢沢勇樹理事より決算報告，そして中村徹・高橋新平監事より会計監査報告（田島理事の代読）が各々説明され，その後承認された．さらに，2016 年度事業計画（案）・予算（案）について両理事から説明がなされ承認された．また，学会賞審査報告が学会賞選考委員会白石雅美委員長より報告がなされ，学会賞として吉川賢会員の「乾燥地における造林技術と生理生態学的研究に関する一連の業績」について審査経緯の報告がなされた.

学会賞授与報告･･･総会終了後，平成 27 年度日本沙漠学会学会賞の審査報告（内規第 5 条・細則第 34 条）に基づき，吉川賢会員の「乾燥地における造林技術と生理生態学的研究に関する一連の業績」に対し，小島紀徳会長より学会賞が授与された．副賞として，故片倉もとこ賞のメダルが贈呈された.

◇総会資料

1．2015 年度事業報告・決算報告・会計監査報告

(1) 2015 年度事業報告

1）会務報告

a．会員　　2016 年 3 月 31 日現在，会員数は以下の通り.

名誉会員：5 名　　正 会 員：309 名

学生会員：24 名　　賛助会員：4 社

購読会員：7 機関

b．会議

(a) 日本沙漠学会 2015 年度総会

2015 年 5 月 23 日（土）秋田市カレッジプラザにて開催した．総会の概要を「おあしす」No. 90（2015 年 6 月）に掲載した．

(b) 評議員会（第 28 回）

2015 年 4 月 17 日（金）東京農業大学世田谷キャンパス（7 号館 1 階木工室）において開催した．議事概要を「おあしす」No. 90（2015 年 6 月）に掲載した．

(c) 理事会

2015 年度中に第 119 ～ 123 回理事会を計 5 回開催した．第 119，120 回議事録を「おあしす」No. 90（2015 年 6 月）に，第 121 回議事録を「おあしす」No. 91（2015 年 9 月）に，第 122 回議事録を「おあしす」No. 92（2015 年 12 月）に，第 123 回議事録を「おあしす」No. 93（2016 年 3 月）に各々掲載した．

(d) 編集委員会

沙漠研究 Vol. 25 No. 1 ～ Vol. 25 No. 4 を編集し発行するとともに，J-STAGE で公開した．2015 年 5 月 22 日（金），秋田拠点センター・アルヴェにて拡大編集委員会を開催した．オンライン版公開に伴い，2015 年 5 月 24 日付けで投稿規定を改定した．

(e) 学会賞審査委員会

2015 年度の学会賞審査委員会を 2016 年 4 月 15 日（金）に開催した．また 2015 年 5 月 23 日（土），第 26 回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行った．さらに E-mail などによって委員会内における情報交換を行った．

2）刊行物

a．日本沙漠学会誌「沙漠研究」

Vol. 25 No. 1（2015 年 6 月），Vol. 25 No. 2（2015 年 9 月），
Vol. 25 No. 3（2015 年 12 月），Vol. 25 No. 4（2016 年 3 月）

b． ニューズレター「おあしす」

No. 90（2015 年 6 月），No. 91（2015 年 9 月），
No. 92（2015 年 12 月），No. 93（2016 年 3 月）

c．日本沙漠学会講演要旨集

第 26 集（第 26 回学術大会，2015 年 5 月 23 ～ 24 日）

d．学会ホームページによる情報提供

学会ホームページによる活動状況に関する情報提供を行った．理事会，分科会，シンポジウム，関連学協会の催事等の開催案内と報告等をタイムリーに掲載し更新した．

3）講演会及び研究会等の開催

a．第 26 回学術大会：2015 年 5 月 23 日（土）～ 24 日（日），秋田市カレッジプラザにおいて，一般研究発表（口頭発表 22 題，ポスター発表 12 題）を行った．ポスター発表のうちの 1 つがベストポスター賞を受賞した．また公開シンポジウム「意外につながっている！秋田と沙漠」をテーマとした 5 つの講演と，総合討論を行った．さらに，学会賞（1 名）の授与式ならびに受賞者講演会を行った．

b．2015 年度秋季シンポジウム：2015 年 10 月 24 日（土），ハーモニータワー 20 階 NTC コンサルタンツ㈱会議室において，「乾燥地および半乾燥地における農村開発技術協力」をテーマに 4 つの講演によるシンポジウムを開催した．参加者 35 名．

4）分科会等の活動

a．沙漠工学分科会：（2016 年 3 月 31 日現在，登録者数：143 名）

会　長：田島　淳（東京農業大学）
幹　事：鈴木伸治（東京農業大学）
連絡先（事務局）：〒 156-8502　世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学　地域環境科学部　生産環境工学科
Tel：03-5477-2351，Fax：03-5477-2620
E-mail：s4suzuki@nodai.ac.jp

活動実績：2015 年 7 月 28 日，東京農業大学世田谷キャンパスで開催された講演会「Effects of some Plant-

Derived Anti-Leukemic Drugs on Individualized Leukemic-Cell Population Profiles in Egyptian Patients」を後援した．2015 年 10 月 7 日，東京農業大学世田谷キャンパス横井講堂で開催された ADCA セミナー「国際協力と開発途上国の農村開発」を後援した．2016 年 2 月 18 日，東京農業大学世田谷キャンパスで開催された講演会「食べることと外交」を後援した．

b．乾燥地農学分科会：(2016 年 3 月 31 日現在，登録者数：183 名)

会　長：石川祐一（秋田県立大学）

連絡先（事務局）：〒 914-0041　東京都町田市玉川学園 8-3-23
㈱アースアンドヒューマンコーポレーション気付
Fax：018-872-1677
E-mail：owner-cadal@iijnet.or.jp

活動実績：(1) 2015 年 11 月 11 日，第 24 回講演会「沙漠の貴重な資源：土と植物」を開催した．話題提供者と演題は大倉利明（農業環境技術研究所）「国連国際土壌年と世界の土壌劣化」，原正和（静岡大学）「植物の熱耐性を向上させる物質とその利用法」，志水勝好（鹿児島大学）「塩分ストレス耐性の強い植物の生理機構とその利用」，藤巻晴行（鳥取大学）「より効率的な除塩に向けて」である（以上，敬称略）．29 名の参加者を得た．(2) 分科会機関紙「CADAL ニュース」第 61 号を 2015 年 2 月 21 日に発行，191 部を分科会会員ならびに講演会参加者に配布した．(3) 分科会の活動状況をさらに広く周知するための情報発信法として，分科会 Web ページを学会ホームページ下に移設した．(4) メーリングリストを開設・運用している．関連する講演会・シンポジウムの開催および参加者の 情報提供等に利用されている．(5) 経団連自然保護基金に採択された（実施課題名「波浸水および地盤沈降地域の将来の利用を見据えた自然資源の調査と国内外の類似環境下における事例の調査」）．その調査結果を基に東北大学大学院農学研究科・秋田県立大学生物資源科学部と共催で 2015 年 11 月 16 日に平成 27 年度東北復興支援報告会，2016 年 3 月 18 日に平成 27 年度東北復興支援シンポジウムを開催し，それぞれ 19 名，20 名の参加者を得た．

c．沙漠誌分科会：(2016 年 3 月 31 日現在，登録者数：66 名)

会　長：縄田浩志（秋田大学国際資源学部）

連絡先（事務局）：〒 630-8124　奈良市北魚屋東町
奈良女子大学共生科学研究センター
渡邊三津子　Tel：0742-20-3687（直通）
E-mail：sabakushi.c@gmail.com

活動実績：(1) 2015 年 5 月 16 日（土）・17 日（日），京都大学・稲盛財団記念館大会議室で開催された公開シンポジウム「家畜化と乳利用　その地域的特性をふまえてー搾乳の開始をめぐる谷仮説を手がかりにしてー」を後援した．(2) 2015 年 5 月 24 日（日），カレッジプラザ（秋田市）で開催された日本沙漠学会第 26 回学術大会において，沙漠誌分科会 2015 年総会を開催した．(3) 2015 年 5 月 23 日（土）～ 24 日（日），カレッジプラザ（秋田市）で開催された日本沙漠学会第 26 回学術大会の開催に合わせ，同会場にて片倉もとこ記念沙漠文化財団と共催で写真展示「半世紀前　片倉もとこの見たオアシス　ワーディ・ファーティマ」を開催した(片倉もとこ記念沙漠文化財団と共催)．(4) 2015 年 11 月 15 日（日），首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにおいて，沙漠誌分科会研究会「乾燥地土壌と人々の生業に関わる研究会」を開催した．小﨑隆（首都大学東京）による基調講演「土と人との永いつきあい～国際土壌年によせて」の後，伊ヶ崎健大（JIRCAS）「サヘルでの暮らしにとけこむ砂漠化対処」，清水貴夫（総合地球環境学研究所）「西アフリカ・半乾燥地の水食をめぐるローカル・ナレッジと人びとの営み」，高田裕介（農業環境技術研究所）「土壌有機物の減耗：カザフスタン北部穀作地帯の農地管理は適正だろうか？」，川田清和（筑波大学）「モンゴル草原のヒツジは何をどれくらい食べているのか？」の 4 発表がなされた．（以上，敬称略）(5) 2016 年 1 月 15 日（金），酪農学園大学で開催された「アジア・アフリカ乾燥地の社会・生態変化への適応」を共催した．(6) 2016 年 3 月 25 日（金），北海道大学東京オフィスにて開催された第 1 回中央ユーラシア「開発と物流」研究会「中央アジアにおける市場・流通と農業の現代的変容」を共催した．

d．風送ダスト研究会：(2016 年 3 月 31 日現在，登録者数：約 10 名)

会　長：黒崎泰典（鳥取大学）

連絡先（事務局）：〒 680-0001　鳥取市浜坂 1390
鳥取大学　乾燥地研究センター
Tel：0857-21-7032，Fax：0857-29-6199

活動実績：平成 27 年度は風送ダスト研究会会長の交代があった．新代表の準備不足により研究会などの活動を実施できなかった．

5）国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

a．Desert Technology XII（DT XII）開催への協力．

b．日本地球惑星科学連合での活動．

c．地理学連携機構・地理関連学会連合への協力．

(2) 2015 年度決算報告

日本沙漠学会 2015 年度　決算

(2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日)　　(単位：円)

	費　目	決 算 額	予 算 額	対予算額増減	摘　要
収入の部	前年度繰越金	9,100,681	9,100,681	―	
	会　費	2,386,000	2,942,000	-556,000	
	1）入会金	9,000	20,000	-11,000	正会員 5 名，学生会員 4 名
	2）正会員費	2,152,000	2,552,000	-400,000	203 名（+ 過年度及び前納 66 名）
	3）学生会員費	75,000	100,000	-25,000	15 名
	4）購読会員費	50,000	70,000	-20,000	5 機関
	5）賛助会員費	100,000	200,000	-100,000	2 社
	助成金	0	0	0	
	その他収入	62,886	680,000	-617,114	
	1）出版費	57,000	640,000	-583,000	Vol.24(2)
	2）その他	5,886	40,000	-34,114	利息，沙漠の事典印税
	(小　計)	2,448,886	3,622,000	-1,173,114	
	合　計	11,549,567	12,722,681	-1,173,114	
支出の部	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星科学連合団体年会費
	学会誌発行費	2,717,565	2,350,000	367,565	
	1）印刷費	2,223,174	1,800,000	423,174	Vol.24(4), Vol.25(1)-Vol.25(3)
	2）編集費	300,000	300,000	0	定額にて依頼
	3）発送費	194,391	250,000	-55,609	発送手数料・郵送料（EMS 含む）
	活動準備金	275,936	505,000	-229,064	
	1）大会預託金	86,949	200,000	-113,051	5/23，24　秋田カレッジプラザ
	2）シンポジウム預託金	34,964	100,000	-65,036	秋季シンポジウム開催経費（NTC コンサルタンツ）
	3）分科会交付金	154,023	205,000	-50,977	2 分科会（乾燥地農学，沙漠誌）
	表彰費	13,480	20,000	-6,520	奨励賞表彰状作成
	会議費	26,520	30,000	-3,480	評議員会・理事会経費
	事務運営費	274,000	450,000	-176,000	
	1）通信・輸送費	60,598	100,000	-39,402	振替手数料，会費請求等郵送代
	2）印刷費	52,768	100,000	-47,232	総会・会議資料，請求書等印刷
	3）事務費	36,294	50,000	-13,706	消耗品費等
	4）人件費	86,400	100,000	-13,600	事務処理等手伝いバイト代
	5）交通費	37,940	50,000	-12,060	
	6）諸雑費	0	50,000	-50,000	Web サーバー管理費
	予備費	0	200,000	-200,000	経常費の 5% 相当
	(小　計)	3,317,501	3,565,000	-247,499	(経常費合計)
	次年度繰越金	8,232,066	9,157,681	-925,615	
	合　計	11,549,567	12,722,681	-1,173,114	

(3) 貸借対照表及び監査報告

貸 借 対 照 表

(2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科　目	金　額	科　目	金　額
郵便振替口座	7,825,020	借入金	0
三菱東京UFJ銀行	407,046	次期繰越金	8,232,066
現金	0		
合　計	8,232,066	合　計	8,232,066

会 計 監 査 報 告

日本沙漠学会 2015 年度会計報告に基づき，帳簿・帳票類を監査したところ，適正に運営されたことを確認いたしました.

2016 年 4 月 9 日

日本沙漠学会　監事　　中村　　徹

日本沙漠学会　監事　　高橋　新平

2．2016 年度事業計画及び予算（案）

(1) 2016 年度事業計画（案）

1）会務

a．会員　　2016 年 4 月 1 日現在，会員数は以下の通り.

名誉会員：5 名　　正 会 員：309 名

学生会員：24 名　　賛助会員：4 社

購読会員：7 機関

b．会議

(a) 日本沙漠学会 2016 年度総会：2016 年 5 月 28 日（土）鳥取大学乾燥地研究センターにて開催.

(b) 評議員会：2016 年 4 月 15 日（金）東京農業大学世田谷キャンパスにおいて既に開催（第 29 回).

(c) 理事会:2016 年 4 月 15 日 (金) 東京農業大学世田谷キャンパスにおいて既に開催 (第 124 回)．他 4 回の開催.

(d) 総務委員会：適宜開催する.

(e) 財務委員会：適宜開催する.

(f) 編集委員会：2016 年 5 月 27 日（金）鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館にて拡大編集委員会を開催予定．他適宜開催する .

(g) 企画委員会：適宜開催する.

(h) 学会賞審査委員会：2016 年 5 月 28 日（土）第 27 回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行う．また委員会を適宜開催する.

(i) 会則等改定委員会：会長の要請により適宜開催する.

(j) 学会事務業務外部委託検討委員会：適宜開催する.

2）刊行物

a．日本沙漠学会誌「沙漠研究」：Vol. 26 No. 1（2016 年 6 月），Vol. 26 No. 2（2016 年 9 月），Vol. 26 No. 3（2016 年 12 月），Vol. 26 No. 4（2017 年 3 月）

b．ニューズレター「おあしす」：No. 94（2016 年 6 月），No. 95（2016 年 9 月），No. 96（2016 年 12 月），No. 97（2017 年 3 月）

c．日本沙漠学会講演要旨集：第 27 集（第 27 回学術大会，2016 年 5 月 28 日～ 5 月 29 日）

d．Web ニューズレターの適宜発行.

e．日本沙漠学会ホームページの適宜更新，入会案内の更新.

3）講演会の開催

a．第 27 回学術大会

・2016 年 5 月 28 日（土）～ 5 月 29 日（日）鳥取大学乾燥地研究センターにて開催（研究発表会・総会・学会賞授与・シンポジウムなど）.

b．秋季シンポジウム

・2016 年 10 月 15 日（土）に名古屋学院大学「さかえサテライト」第 8 講義室にて開催予定.

c．その他 適宜ミニシンポジウムを開催.

4）分科会講演会等の活動

a．沙漠工学分科会

・2016 年 12 月に第 30 回沙漠工学分科会講演会を開催.

・分科会会員と関連団体組織等との交流（共同研究など）.

b．乾燥地農学分科会

・2016 年 11 月に第 25 回乾燥地農学講演会を開催.

・分科会機関誌「CADAL ニュース」62 号を発行.

・ホームページの情報更新を行なう.

・メーリングリストにおける情報交換をさらに拡充.

・その他，分科会会員の要望を集約し，新たな体制強化を図る.

c．沙漠誌分科会

・2016 年 5 月 28 日（土）～ 29 日（日），鳥取大学で開催される第 27 回日本沙漠学会学術大会会期中に，沙漠誌分科会 2016 年度総会を開催予定.

・年度内に 1 ～ 2 回の研究会の開催.

・ホームページ，ニューズレター，メーリングリスト等を用いて情報発信を継続する.

d．風送ダスト研究会

・風送ダスト研究会を開催する（1 回程度）.

5）国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

a．The 3rd International Conference on Arid Land（ICAL3，トルコ）開催への協力．2017 年 9 月を予定.

b．Desert Technology XIII（DT XIII，インド）開催への協力．2018 年を予定.

c．日本地球惑星科学連合活動への協力.

d．地理学連携機構・地理関連学会連合活動への協力.

e．第 4 回乾燥・半乾燥地域における水，生態系そして持続的な開発に関する国際会議（WATARID IV：The Fourth International Conference on Water, Ecosystems and Sustainable Development in Arid and Semi-arid Zones）の後援.

f．その他　国内外の講演会等への協力・関係機関との交流及び協力.

6）その他本会の目的達成のための事業

・必要な事業を随時開催.

(2) 2016 年度予算（案）

日本沙漠学会 2016 年度　予算（案）

（2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日）　　（単位：円）

	費　目	予　算　額	前年度決算額	対前年度額増減	摘　　要
収入の部	前年度繰越金	8,232,066	9,100,681	－	
	会　　費	2,882,000	2,386,000	496,000	
	1）入　会　金	20,000	9,000	11,000	
	2）正　会　員　費	2,472,000	2,152,000	320,000	正会員数（2016.4.1 現在）309 名
	3）学　生　会　員　費	120,000	75,000	45,000	学生会員数（2016.4.1 現在）24 名
	4）購　読　会　員　費	70,000	50,000	20,000	7 機関
	5）賛　助　会　員　費	200,000	100,000	100,000	4 社
	助　成　金	0	0	0	
	その他収入	370,000	62,886	307,114	
	1）出　版　費	360,000	57,000	303,000	原著論文 2 報× 4 号
	2）そ　の　他	10,000	5,886	4,114	利息，沙漠の事典印税等
	（小　計）	3,252,000	2,448,886	803,114	
	合　　計	11,484,066	11,549,567	-65,501	
支出の部	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星科学連合団体年会費
	学会誌発行費	2,350,000	2,717,565	-367,565	
	1）印　刷　費	1,800,000	2,223,174	-423,174	「沙漠研究」年間 4 号発行
	2）編　集　費	300,000	300,000	0	定額にて依頼
	3）発　送　費	250,000	194,391	55,609	発送手数料・郵送料（EMS 含む）
	活動準備金	505,000	275,936	229,064	
	1）大　会　預　託　金	200,000	86,949	113,051	学術大会開催経費
	2）シンポジウム預託金	100,000	34,964	65,036	シンポジウム開催経費
	3）分　科　会　交　付　金	205,000	154,023	50,977	3 分科会
	表　彰　費	20,000	13,480	6,520	学会賞表彰状作成
	会　議　費	30,000	26,520	3,480	評議員会・理事会経費
	事務運営費	500,000	274,000	226,000	
	1）通信・輸送費	100,000	60,598	39,402	振替手数料，会費請求等郵送代
	2）印　刷　費	200,000	52,768	147,232	会議資料，請求書 , 選挙関連等印刷
	3）事　務　費	50,000	36,294	13,706	消耗品費等
	4）人　件　費	50,000	86,400	-36,400	事務処理等手伝いバイト代
	5）交　通　費	50,000	37,940	12,060	
	6）諸　雑　費	50,000	0	50,000	
	学会業務等外部委託金	500,000	0	500,000	
	予　備　費	200,000	0	200,000	経常費の 5％相当
	（小　計）	4,115,000	3,317,501	797,499	（経常費合計）
	次年度繰越金	7,369,066	8,232,066	-863,000	
	合　　計	11,484,066	11,549,567	-65,501	

３．学会賞審査報告

平成 27 年度　日本沙漠学会　学会賞

氏　名：吉川　賢　会員

テーマ：乾燥地における造林技術と生理生態学的研究に関する一連の業績

４．その他

日本沙漠学会・第 27 回学術大会－報告（大会運営委員会報告）

日本沙漠学会第 27 回学術大会が鳥取大学乾燥地研究センターにおいて 2016 年 5 月 28 日（土）～ 29 日（日）に開催されました．鳥取大学乾燥地研究センターとの共催で行われました．

第 27 回学術大会

期日：2016 年 5 月 28 日（土）～ 29 日（日）
場所：鳥取大学乾燥地研究センター

プログラム

5 月 28 日（土）	5 月 29 日（日）
研究発表会・セッション 1	研究発表会・セッション 3
研究発表会・セッション 2	学会賞受賞者記念講演
ポスター発表コアタイム	研究発表会・セッション 4
総会	研究発表会・セッション 5
公開シンポジウム	エクスカーション
懇親会	

学術大会の概要

本大会では，発表内容及び研究対象地域などを勘案して 5 つのセッションを設けて研究発表会を行い，口頭発表 16 件，ポスター発表 11 件がありました．研究対象地は，多い順に，日本 5 件，中国 2 件，カザフスタン 1 件, モンゴル 2 件, インド 1 件, オーストラリア 3 件, ミャンマー 1 件，ヨルダン 1 件，ジプチ 1 件，スーダン 1 件，チャド 1 件，モーリタニア・セネガル 1 件，アフリカ全域 1 件，その他場所を特定しないもの 5 件でした．ケニヤとジプチからの留学生による英語での発表が口頭，ポスターでそれぞれ 1 件ずつありました．津波被災地の修復および有効利用に関する発表が 2 件ありました．

参加者数は 51 名でした．なお，次回の学術大会開催地は，千葉工業大学となりました．

ポスター発表コアタイムの様子

学会賞

2015 年度日本沙漠学会賞には，吉川賢会員が受賞されました．業績「乾燥地における造林技術と生理生態学的研究に関する一連の業績」が評価されたものです．

ベストポスター賞

ベストポスター賞には，キルイ・サミエル・キプケモイ会員他「灌漑水量の違いがダイズの根系分布と収量に及ぼす影響」と丸山優樹会員他「農業政策による農地開発効果の評価－モーリタニア国・セネガル川河畔での社会調査－」が受賞しました．

学会賞を受賞し，片倉もとこ賞のメダルを手にする吉川賢会員

ベストポスター賞を受賞したキルイ・サミエル・キプケモイ会員（左）と丸山優樹会員（右）．小島紀徳会長を挟んで．

公開シンポジウム

公開シンポジウムは，鳥取大学乾燥地研究センターおよび 4D プロジェクトとの共催で行われ，大会参加者を含め 45 名が参加しました．まず，4D プロジェクトを代表して篠田雅人会員（名古屋大学環境学研究科）より趣旨説明がありました．乾燥地のさまざまな土地利用形態に注目し，「砂漠化の歴史」に関する知見を食料生産革命以降の人類史のなかで位置づけ，砂漠化の進行と農牧業・人間活動の相互作用を世界的に俯瞰するとともに，世界の乾燥地で栄えた四大文明の盛衰や遊牧の持続性と関連づけることを目指し，本シンポジウムをその取り組みのキックオフとしたい，と呼びかけました．

続いて北川浩之氏（名古屋大学宇宙地球環境研究所）から，地中海東岸レヴァント地方の過去 20 万年間の水文変動を探るための ICDP 死海深層掘削プロジェクト（ICDP-DSDDP）についての紹介がありました．

辻本壽氏（鳥取大学乾燥地研究センター）は，小麦の栽培化の歴史を中心に主要作物の成立を俯瞰した後，化学肥料や水の大量投入を前提とした緑の革命の限界を指摘し，第 2 の緑の革命を通じた食料増産の必要性を説きました．

筆者，藤巻晴行（鳥取大学乾燥地研究センター）は，メソポタミア文明の盛衰から学ぶべき教訓として，地下水位上昇により塩類集積を防ぐための排水路整備の重要性はもちろんのこと，環境問題一般について，悪影響が顕在化する前に長期的な影響を予測し，予防的に緩和策，適応策を実行することの大切さを説きました．

北村義信会員（鳥取大学国際乾燥地研究教育機構）は，現在も進行中の大規模な塩害の事例として，アラル海流域における人間活動の変遷と塩類化について紹介しました．灌漑面積の拡大に伴う取水量の大幅な増大が，アラル海への流入水量を激減させるとともに，粗雑な水利施設，不適切な水管理により，アムダリア川流域の灌漑農地の半分近くが塩類集積の影響を受けているといわれ，特に重篤なところでは耕作放棄が進んでいる，と報告しました．

上記 4 名の講演の後，縄田浩志会員（秋田大学国際資源学研究科）が西アジアの生業史の視点から，山中典和氏（鳥取大学乾燥地研究センター）が中国の砂漠化史の視点から，コメントを述べられました．

総合討論では，篠田雅人会員が提唱する環境収容力という指標に塩害の影響をいかに組み込むか，などについて活発な議論が交わされました．

懇親会

懇親会は同センターのインターナショナル・アリド・ラボの中庭で，仕出し料理の立食形式で 48 名が参加して和やかに行われました．砂丘の特産品である長芋の短冊切りと生ラッキョウも供されました．ベストポスター賞の授与式もそこで行われました．

エクスカーション

アリドドームを中心に，乾燥地研究センターの施設を見学した後，21 名が砂丘実験圃場で灌漑実験に供したラッキョウの体験収穫をしました．何人もの方が，食べるだけでなく，種ラッキョウとして自分でも育ててみる，と意気込んでおられました．その後，観光砂丘にバスで移動し，砂の美術館で砂像を見学した後，観光砂丘の散策の時間を取りました．あいにくの雨のぱらつく曇り空でしたが，会長はじめ 10 名以上の方が，「馬の背」と呼ばれる砂丘の頂上まで往復約 20 分かけて歩きました．続いて浦富海岸に移動し，15 名が遊覧船でリヤス式海岸の景観を堪能し，3 名が「山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館」で見学しました．

【第 27 回日本沙漠学会学術大会実行委員会委員長　藤巻晴行】

2016 年　日本沙漠学会　秋季シンポジウムのお知らせ

ラクダは乾燥に強い動物です．本シンポジウムでは，おもにカザフスタンで飼育されているラクダに注目し，多角的に検討します．カザフスタンでは，昔からヒトコブラクダとフタコブラクダの 2 種が飼われており，目的に応じてこれらの交配が行われてきました．近年は，乳量の多いヒトコブと，寒さに強いフタコブを交配させたハイブリッドの作出が盛んになってきています．そこで，ラクダの動物としての特性を，DNA，生態，行動の点から解明すると同時に，ラクダを人間がどのように利用してきたか，その相互交渉の歴史と現状についての研究 * を進めています．本シンポジウムでは，その研究成果を広く公開し共有したいと思います．

* 科研費補助金 基盤（B）「中央アジアにおける大型家畜の利用：カザフスタンを中心に」（代表：今村薫）

日　時：2016 年 10 月 15 日（土）13:30 ～ 17:30
場　所：名古屋学院大学「さかえサテライト」第 8 講義室
〒 460-0008　名古屋市中区栄 4-1-1 中日ビル 7 階
名古屋駅より地下鉄東山線 2 つ目「栄」下車，12，13 番出口より徒歩 1 分
TEL：052-678-4076
テーマ：「中央アジアにおけるラクダ牧畜－ラクダと人間の相互交渉の歴史と現状－」

プログラム：

13:30 ～ 13:40　趣旨説明　今村　薫（名古屋学院大学教授）
13:40 ～ 14:10　S・ヌルタジン（アルファラビ・カザフ国立大学教授）
「カザフスタンにおけるラクダ導入の歴史」
14:10 ～ 14:40　星野仏方（酪農学園大教授）
「気候変動とラクダの飼育－ラクダの生態学的特性における新知見」
14:40 ～ 15:10　石井智美（酪農学園大教授）
「乳成分からみたラクダの季節動態および種による違い」
15:10 ～ 15:20　休憩
15:20 ～ 15:50　斎藤成也（国立遺伝学研究所教授）
「DNA と表現型からみたラクダ 2 種とそれらのハイブリッドの現状」
15:50 ～ 16:20　風戸 真理（北星学園大学講師）
「牧畜民の都市と草原間の往来－牧畜知識はどのようにして継承されるか」
16:20 ～ 16:50　今村　薫（名古屋学院大学教授）
「カザフスタンにおけるラクダ牧畜技術の変遷－遊牧，計画経済，市場－」
16:50 ～ 17:00　休憩
17:00 ～ 17:30　総合討論

問い合わせ：今村　薫（名古屋学院大学　現代社会学部）imamura（at）ngu.ac.jp

学会事務の一部を外部委託することになりました

すでに総会・ホームページ・おあしす等を通じてご報告してきましたように，渡邉副会長を中心に委員会が構成され，学会事務の一部外部委託の具体化が検討され，委託先の選定が行われてまいりました．その結果，これまで歴代の理事が分担担当していた会員管理・会計業務・ホームページ管理等の学会事務を下記のように，本年７月より株式会社共立に外部委託することが７月15日の理事会にて承認され，また学会と共立との間で契約書の調印がなされました．

今後は担当理事個々人の尽力と裁量によるところが大きかった多様な業務の窓口が一本化され，また平日勤務時間内であれば，いつでも委託先担当者に連絡が可能である等，学会員の皆さま方にとっても，より良いサービス・メリットが生じるものと確信致します．また理事会メンバーとしましても，今後は学会活性化に向けた努力に集中できるものと考えております．会員の皆さま方におかれましては，今後とも学会活動への積極的なご参加，ご協力をお願いする次第でございます．

記

１．委託する主な業務内容と変更点

※入会・退会・変更届

【現在】申込書を郵送　→　【変更後】学会 HP より各種手続きを行なえる．

※各種問い合わせ

【現在】総務・財務　→　【変更後】共立へ一本化

※納入状況の確認

【現在】総務・財務　→　【変更後】共立を一本化

２．連絡先

編集に関することなども含め，まず下記にお問い合わせください．

必要に応じて連絡先を紹介させていただきます．

〒 104-0033　東京都中央区新川 2-22-4 共立ビル２Ｆ
株式会社共立内　日本沙漠学会事務局
Tel：03-3551-9896（平日　9 時～ 17 時の間　対応）
Fax：03-3553-2047
Email：jaals@kyouritsu-online.co.jp

今後とも学会の運営，発展によろしくご協力のほどお願い申し上げます．

平成 28 年 7 月 15 日
日本沙漠学会会長　　小島　紀徳

※なお，今後の年会費ご請求については「沙漠研究」に同封致しますのでご了承下さい．

「沙漠研究」誌に関するアンケート回答のお願い

2016 年度の総会ならびにメーリングリストでご案内差し上げましたが，皆様の研究活動の成果の発表の場および情報源として「沙漠研究」誌をより充実させるために，本誌に関するアンケートを行い，会員の皆様のご意見を伺っております.

お手数ですが，以下のページにアクセス下さり，ご回答をお願い申し上げます.

http://goo.gl/forms/XCwtmuj432

スマートフォン等 2 次元バーコード対応のデバイスをお持ちの方は，以下のコードをスキャンすることによって web ページへのアクセスが出来ます.

いただいたご回答は個人が特定出来ないような形で，集計・分析・公表させていただきますことをご了承下さい.

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます.

学 会 記 事

日本沙漠学会第 124 回理事会　議事録

日　時：2016 年 4 月 15 日（金）13:00 ～ 15:00

場　所：東京農業大学世田谷キャンパス　生産環境工学科バイオロボティクス研究室木工室

出　席：小島紀徳（会長），吉川　賢，渡邉文雄（以上，副会長），川端良子，酒井裕司，白石雅美，鈴木伸治，田島　淳，田中　徹（代理:高橋　究），豊田裕道，森尾貴広，矢沢勇樹（以上，理事），高橋新平，中村　徹（以上，監事），島田沢彦（総務委員），安部征雄（顧問），的場泰信（オブザーバー）

委任状：吉崎真司（理事）

Ⅰ．審議事項

1．2016 年度評議員会および総会における議題

⑴　2015 年度事業報告・決算報告・会計監査について

・総務担当理事（鈴木）および財務担当理事（矢沢）より説明がなされた.

・監査を 4/9 に行った結果，適正な運営であったことが中村監事から報告があった．繰越金については，基金化するなどの検討が必要であるとの付帯意見があった.

・単年度での収支の均衡への取り組みが必要であること，一方で黒字が続くのであれば，会員への還元も考えなければならないとの意見があったが，現在ボランティアで行われている事務業務の一部外部委託が実施予定であり，また学会誌出版形式の変更も検討されていることから，これらと併せて継続審議することとした．なお 2016 年度への繰越金が昨年度に比して減少したのは，ICAL2 での印刷費分が昨年度の繰越分に含まれており，これを 2015 年度に支払ったためであり，実質黒字である.

・総会では，両監事とも欠席予定であるため，総務で監査報告を代読することとする.

⑵　2016 年度事業計画（案）・予算（案）

・総務担当理事（鈴木）および財務担当理事（矢沢）より説明がなされた.

・学会事務業務の一部外部委託を予算化した.

・学会誌の冊子体の在り方について，編集委員会での検討項目とした．これに関連し，学会員へのアンケート依頼について総会で言及する．ただし外部委託検討委員会にも関わる話であることを総会において触れることとした.

・学会誌の印刷費が数年前に比して減額されているのは，昨今は価格が下がっているためである.

2．学会賞の表彰について

学会賞審査委員会（委員長：白石）より選考結果の報告があり，日本沙漠学会学会賞の授与対象者として吉川賢会員が推薦され，承認された．選定のガイドラインを作り，審査の判断基準を明確化すべきとのコメントがあり，委員会内で審議することとし

た.

3．今後の学術大会・秋季シンポジウムの日程と開催地について

・2016 年秋季大会（名古屋学院大学）について，10/15 とすることが決定された．なお，同会場において 10:30 ～理事会，午後～シンポジウムとする．

・2017 年学術大会：千葉工業大．5/27 ～ 28，津田沼キャンパスにて開催予定.

・2017 年秋季シンポジウム：筑波大学．9 月中下旬に開催されるグローバルサイエンスウィークに合わせた開催を予定.

・2018 年の学術大会について石巻専修大に，秋季シンポジウムについて鹿児島大学に働きかけをする.

Ⅱ．報告事項

1．学会事務業務外部委託検討委員会

3 社からヒアリングを行ったことが渡邉委員長から報告された．当初の契約期間は 3 年間とする．1 社を選定し，7 月 15 日の理事会で説明を依頼するとともに, その後できるだけ速やかに契約を交わす.

2．選挙管理委員会

2017 年度は評議員・役員の改選の年であることから，選挙管理委員会が設置された．小島会長より，田島淳理事，的場泰信会員，橘隆一会員，實野雅太会員，高橋究会員が指名された．なお，委員長は互選により選ばれる.

3．編集委員会

・編集事務局の担当者の変更について森尾委員長から報告があった.

・DT XII（エジプト）のプロシーディングスの編集業務が遂行されるよう働きかけが必要である.

・学会誌の電子化を行った場合の予算見積もりについて，矢沢財務担当理事から試算が示された.

Ⅲ．その他

・日本農学会への入会の再提案があった.

・第 125 回理事会は 5 月 28 日に鳥取大学乾燥地研究センターにおいて，第 126 回理事会は 7 月 15 日東京農業大学世田谷キャンパスにおいて，第 127 回理事会は 10 月 15 日名古屋学院大学で開催とする.

・第 128 回理事会は 2017 年 1 月 7 日開催予定.

日本沙漠学会第 29 回評議員会　議事録

日　時：2016 年 4 月 15 日（金）15:00 ～ 17:30

場　所：東京農業大学世田谷キャンパス　生産環境工学科バイオロボティクス研究室木工室

出席評議員：小島紀徳（会長），吉川　賢，渡邉文雄（以上，副会長），川端良子，酒井裕司，白石雅美, 鈴木伸治, 田島　淳, 田中　徹（代理：高橋　究），豊田裕道，森尾貴広，矢沢勇樹（以上, 理事），高橋新平，中村　徹（以上，監事），岩本　彰（代理：中村謙仁），牛木久雄，鈴木　潤，西牧隆壮，的場泰信

委任状：吉崎真司(理事), 石川祐一, 上原有恒, 篠田　裕, 縄田浩志，平田昌弘，渡邊三津子

評議員以外の出席：島田沢彦（総務委員), 安部征雄（顧問），今村　薫（オブザーバー）

欠　席：北村義信，松本　聰，山田パリーダ（以上，評議員）

出席評議員（委任状含む）が定数（29 名）の 1/3 以上を満たしていることが確認され(細則第 6 章第 22 条), 会長を議長として評議員会が開催された.

Ⅰ．審議事項

1．2015 年度事業報告・決算報告・会計監査について

・総務担当理事（鈴木）および財務担当理事（矢沢）より説明がなされた.

・賛助会員の会費納入状況について確認があった.

・分科会交付金の送付と精算について確認があった．活動が活発である分科会への交付金を増額する案が出された.

2．2016 年度事業計画（案）・予算（案）について

・総務担当理事（鈴木）および財務担当理事（矢沢）より説明がなされた.

・編集委員会（委員長：森尾理事）より，学会誌の冊子体の今後の在り方について検討することが説明された.

・学会事務業務外部委託検討委員会が組織され（委員長：渡邉副会長），事務業務の一部を外部委託することについて検討を進めていることについて確認された．学会の財政がより健全なものとなり，会員へ提供するサービスの質がより向上する等のメリットが説明された．編集・印刷業務は従来のままの予定であり，契約の可否を決定し，3 年間の委託を行う予定である．業務委託検討に至った背景・趣旨についての十分な説明が総会では必要との意見があった.

・2016 年秋季大会（名古屋学院大学）が 10/15 に開催されることを確認した．テーマは「中央アジアにおけるラクダと人間の相互交渉」.

Ⅱ．報告事項

1．学会賞の表彰について

学会賞審査委員会（委員長：白石）による選考の結果，日本沙漠学会学会賞の授与対象者として，吉川賢会員が推薦され，理事会にて承認されたことが報告された．賞状授与および片倉もと子賞（副賞，メダル）贈呈が総会（5/28，鳥取大学乾燥地研究センター）終了後に行われる.

2．選挙管理委員

2017年度の評議員・役員の改選に際し，小島会長より選挙管理委員会の設置と選挙管理委員の指名がなされた．

Ⅲ．その他

・北村義信会員の著書「乾燥地の水をめぐる知識とノウハウ」の書評について依頼があった．渡邉副会長が担当する．

・日本地球惑星科学連合 第14回学協会長会議（5/23, 幕張メッセ）は都合のつく役員がいないため欠席することとする．

・次回学会誌（25巻4号）に大会参加申込のはがきが同封されて郵送される．不参加者についても総会の委任状を提出するよう会員への周知の依頼が小島会長からなされた．

・おあしす表紙の写真提供依頼が総務委員会からなされた．

日本沙漠学会第125回理事会　議事録

日　時：2016年5月28日（土）11:30 ～ 12:30

場　所：鳥取大学乾燥地研究センター　リフレッシュルーム

出　席：小島紀徳（会長），吉川　賢（副会長），渡邉文雄（副会長），川端良子，酒井裕司，白石雅美，鈴木伸治，田島　淳，豊田裕道，森尾貴広，矢沢勇樹（以上，理事），島田沢彦（総務委員），藤巻晴行，依田清胤（以上，オブザーバー）

委任状：田中　徹，吉崎真司（以上，理事），高橋新平，中村　徹（以上，監事），安部征雄（顧問）

Ⅰ．総会の進行について

・正会員と名誉会員の人数314名に対し，委任状136名，会場に40名余であることが鈴木理事から報告があった．

・議長を依田清胤会員（石巻専修大学）に依頼することとした．

・議事進行について小島会長から確認がなされた．事業報告・事業計画（案）については鈴木理事が，決算報告･予算（案）については矢沢理事が説明する．会計監査報告については，田島理事が代読する．ただし，事業計画の説明のうち，学会事務業務外部委託については渡邉副会長が，冊子体のあり方の検討に関しては森尾編集委員長が行う．また，学会賞審査委員会報告を白石理事が行う．

Ⅱ．学術大会の進行について

・ベストポスター賞の審査および表彰の手順について確認した．

・参加申込みはがきに関する経緯の報告が鈴木理事からあった．

・はがきとメールのそれぞれによる届出割合を確認した結果，はがきによる参加申込みを継続することとした．

Ⅲ．今後の学術大会・シンポジウム等の開催地と日程の確認

・2016年度秋季シンポジウムは名古屋学院大学で10月15日（土）の13:00より開催する．その際，第127回理事会を10:30より開催する．

・第28回学術大会を，2017年5月の土日に千葉工業大学津田沼キャンパスで開催予定．

・2017年度の秋季シンポジウムを，筑波大学の主催にて10月の土曜日に開催予定．

・第29回学術大会を，2018年に石巻専修大学で開催予定．

Ⅳ．その他

・5月27日に開催予定であった拡大編集委員会は，航空トラブルのため中止した．

・DT XII（エジプト）のプロシーディングスについて，原稿の査読が終了したとの報告が大会実行委員長のEl-Shemy教授（カイロ大学）（7/29 ～ 8/1来日予定）からあった．

・DTXIIIが2018年にインドで開催される予定であるとの情報が小島会長からあった．ICAL3のトルコ開催については不明であるが，インドでの合同開催の可能性もある．

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 会 員 動 向 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

●新入会員

正会員（2015 年度入会）

河合　隆行（ID:1089，鳥取大学乾燥地研究センター）

学生会員（2015 年度入会）

髙橋　優樹（ID:1086，成蹊大学理工学部）

武　　靖（ID:1087，名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻）

赤城　亮太（ID:1088，工学院大学大学院工学研究科化学応用学専攻）

正会員（2016 年度入会）

高橋　　究（ID:1090，SBI ファーマ株式会社）

風戸　真里（ID:1091，北星学園大学短期学部生活創造学科）

大西　純也（ID:1092，国際農林水産業研究センター）

●退会会員

正会員

木村　繁男，屋形　禎亮，馬場　　毅，川本　邦男，関山　哲雄，大須賀公郎，高津　佳史，益守　眞也，角張　嘉孝，石山　　隆，藤井　宏志，堀内　武史，高多　　明，谷口　雅彦

学生会員

亀岡　　廉，ヤダムジャブ　プレプドルジ，ハヤト　カーン　シャムス

賛助会員・団体会員名簿

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel：042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel：03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	164-8721	東京都中野区本町 1-32-2	Tel：03-5354-3621
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel：0424-95-1060